

委員会行政視察

議会では、毎年、行政視察を行っています。議員が先進地を視察し、広く見識を深めることにより市政の発展に寄与することを目的としています。

今号では、議会運営委員会、総務産業常任委員会、教育福祉常任委員会の視察内容を報告します。

議会運営委員会

- 埼玉県 鶴ヶ島市・・・政策提言と政策説明会について
- 東京都 町田市・・・市民と議会の懇談会、タブレットの導入について
- 群馬県 桐生市・・・条例提案と議長記者会見、議会モニター制度について

鶴ヶ島市では、市議会として「市民の意見を反映して政策提案を行っている」と市民に向けて発信し、意見交換で市民の市政参画に取り組んでいた。また、議員間の自由討議が活発に行われ、委員会中に委員長提案で自由討議に入る事ができるようになっていた。

町田市では議会への住民参加を目指し、その指標として年間傍聴者1000人を目標に、実践されている。タブレットの導入も行っており、職員や執行部の仕事量の軽減や資源の減量など費用対効果からも早期の導入を勧められ、導入の必要性を強く感じた。

桐生市では「子ども基金条例」や「SDGsのまちづくり条例」など常任委員会で条例案を協議・検討し、上程を行っていた。ただし、実現可能性が無いものや目的が希薄であってはならないため執行部との意見交換が重要であるとの事であった。

また、市政や議会運営に反映するために意見提出手続きを公開で行い、議会モニター制度で、寄せられた意見や提言等を市政や議会運営に反映できるような取り組みを進めていた。

今回、議会改革の取り組みとして市民の声を聞く機会をこれまで以上に工夫し、市民の声が政策に反映できるよう議員間で討議を重ね、それら議会での取り組みや活動を、いかに市民に向けて発信していくかが大切であるかを再認識できた。



総務産業常任委員会

- 新潟県 糸魚川市・・・大規模火災時の対応と、火災後の対策と復興まちづくり計画について
- 茨城県 龍ヶ崎市・・・防災・減災日本一の取り組みと豪雨を想定した強いまちづくりについて
- 茨城県 常総市・・・鬼怒川の氾濫から学んだ防災・減災・危機管理と議会の対応について

糸魚川市大規模火災は火の不始末から起きた火災で、折からの気象状況と重なりこれまでに経験したことがない大火となった。能美市でも、行政から市民への火災予防の情報発信に加え、消防士・消防団が十分な機動力を発揮できる支援が必要と考える。大規模延焼時には広域連携が重要であり、復旧時には国・県の早期支援体制の構築が議会としても急務であると感じた。

龍ヶ崎市では、気象庁からの気象予報士派遣事業を受け、気象予報士によるアドバイスで早めの避難発令や勧告が行えるとの事であった。能美市においても気象予報士の派遣事業の検討や、災害時における職員のBCP運用の必要性を感じた。

常総市では、過去の河川氾濫が教訓とされず、対応の遅れがあったとの事であった。被災後には自治体と議会、市民が情報を共有する災害対策と、災害時の議員のマニュアルも作成された。復旧復興時の議会の役割として特別委員会の設置や、国、県への災害に対する意見書の提出などで費用面での折衝を行うことが重要であると学んだ。



教育福祉常任委員会

- 愛知県 みよし市・・・みよし市民病院の運営について
- 三重県 志摩市・・・志摩市民病院の運営について
- 三重県 亀山市・・・亀山市立医療センターの運営について

みよし市民病院では、地域包括システム構築に向け、病床数を急性期から回復期へシフトしていた。市も直営で訪問看護ステーションを運営し、24時間365日の在宅医療支援拠点の役割を担っていた。経営安定化に向け、機能加算が増点される体制づくりや看護職員配置基準を変更した。

また、地域活動積極的に参加や療養生活の活性化を図り、自立支援に向けての取り組みが評価されている点は、能美市において参考になると思えた。

志摩市民病院では、「絶対に断らない」をモットーに、総合診療医を中心に、患者を断らない体制で、救急・災害・離島への医療提供などで、地域住民の健康と医療の研修に努めていた。

また、臨床実習生の受入や初期研修を終えた後期研修医の受入、大学との寄附講座を実施し、医師不足の課題の克服を目指している。地域住民をまきこんでのまちづくり、人づくりに力を入れ、4年前に就任した院長は、赤字を減少させた。

トップである院長次第で、病院は変わるということを実感した。

亀山市立医療センターでは、地方公営企業法の全部適用で、「病院事業管理者」を配置し、「地域医療部」を新設し、地域医療を推進していることは、検討すべき事例と思えた。また、市内唯一の急性期病院で、総合診療医が担っており、病院外でも健康講座を開設していた。

今回の行政視察を通じ、市立病院は地域になくてはならない病院であり、地域医療構想のなか、的確に在宅医療を支える病院としての役割をも担えるよう、今回の厚生労働省の公表を改革の好機と捉えていきたい。



副議長が交代しました

令和2年第1回定例会の最終日、嵐昭夫副議長の辞任に伴う副議長選挙が行われ、開道昌信議員が新副議長に選ばれました。

第14代
能美市議会副議長
開道 昌信

〔副議長就任あいさつ〕

市民の安心・安全を確保
するとともに、活力ある能
美市の実現に向け、居村議
長を補佐し能美市議会の総
合力を発揮できるよう全力
で頑張ります。

副議長